

東金市 <sup>ほど</sup>羽戸2 遺跡

現在、整理作業を行っている羽戸2遺跡(平成 19 年度発掘調査)の平安時代の土師器(はじき)です。2 軒の竪穴住居跡とその周辺から出土しました。

左から 2 番目、つまみが付いて 4 つ孔(あな)が開いている土器は香炉(こうろ)の蓋(ふた)です。

右奥の土器は鉄鉢形土器(てっぽうがたどき)と呼ばれるもので、外面に黒漆が塗られた優品です。これらは、いずれも仏具であり、この付近に仏教関連の施設があったと考えられます。

羽戸 2 遺跡は、平安時代の大規模な集落ですが、今回の調査地点はそのはずれにあたります。手前の墨書土器(杯)の底に墨で書かれた「徳万」は、僧侶の名前の可能性があります。香炉や鉄鉢形土器を使った人物は、村のお堂に住む徳万という僧侶であったかもしれません。

